

大学・高専機能強化支援事業（支援１：学部再編等による特定成長分野への転換等に係る支援）
実施状況報告書

選定年度	令和6年度	学校コード	F140310110721	設置等組織名	(仮称)フード・マネジメント学部
大学名	中村学園大学	設置区分	私立		
学校種	大学	都道府県	福岡	事業計画名	フードテック領域を含む食分野をけん引する高度専門人材育成事業

1.フェーズ別の計画及び取組状況

フェーズ別の事業計画と取組状況、年度別の自己評価を記載してください。
当初計画から変更又は追加した取組がある場合は「取組状況」に取組を赤字で記載してください。また、計画変更申請をした場合は「取組状況」に承認日を赤字で記載してください。
計画の進捗の遅れや実施困難な事項がある等、自己評価が下位2つの場合には、課題（理由）とその対応を記載してください。計画通りに実施できており、その他課題がない場合に限り記載は不要です。

事業期間	事業計画	取組状況	自己評価、課題（理由）とその対応	
フェーズ1	1－① 令和6年7月～ 育成人材像やカリキュラム編成方針について、福岡食育健康都市づくり地域協議会と連携し、「全体企画部会」にて議論 1－② 令和6年8月～ 専門部会として「プログラム開発部会」や「企業開設科目部会」を並行して実施 1－③ 令和6年8月～ 先進技術等視察および新規連携先の開拓 1－④ 令和6年8月～ 探究ワークショップの開催や各種広告物等によるプロモーション活動 ※以下年度毎に実施 1－⑤ 令和7年2月～ 年度の成果・課題のまとめ 1－⑥ 令和7年5月～ 外部環境分析調査票の作成、実施 1－⑦ 令和7年7月～ 前年度の結果を踏まえた課題解決に向けて、「全体企画部会」にて議論 ※以下年度毎に実施 1－⑧ 令和7年8月～ 専門部会として「プログラム開発部会」や「企業開設科目部会」を並行して実施 ※以下年度毎に実施 1－⑨ 令和8年2月～ 年度の成果・課題のまとめ ※以下年度毎に実施	1－① 令和6年7月～ 育成人材像やカリキュラム編成方針について、福岡食育健康都市づくり地域協議会と連携し、「全体企画部会」にて議論 1－② 令和6年12月～ 専門部会として「共同研究部会」や「連携開設科目部会」を並行して実施 1－③ 令和6年8月～ 先進技術等視察および新規連携先の開拓 1－④ 令和6年8月～ 探究ワークショップの開催や各種広告物等によるプロモーション活動 ※以下年度毎に実施 1－⑤ 令和7年2月～ 年度の成果・課題のまとめ 1－⑥ 令和7年5月～ 外部環境分析調査票の作成、実施 1－⑦ 令和7年7月～ 前年度の結果を踏まえた課題解決に向けて、「全体企画部会」にて議論 ※以下年度毎に実施 1－⑧ 令和7年8月～ 専門部会として「プログラム開発部会」や「企業開設科目部会」を並行して実施 ※以下年度毎に実施 1－⑨ 令和8年2月～ 年度の成果・課題のまとめ ※以下年度毎に実施	R6年度自己評価	【3】計画を十分に実施している。
			○年度自己評価	リストから選択してください。
フェーズ2 前倒し	なし		○年度自己評価	リストから選択してください。
認可申請又は届出	令和9年3月 (仮称)フード・マネジメント学部 認可申請予定 令和9年3月 収容定員の総数の増加 認可申請予定			
フェーズ1 後倒し	本格的な学生募集を令和9年度より実施するため、フェーズ1について一部後倒しを行う。 1－㉔ 令和9年8月～ 探究ワークショップの開催 1－㉕ 令和9年8月～ 各種広告物等によるプロモーション活動		○年度自己評価	リストから選択してください。
フェーズ2	2－① 令和9年度中 フードテック領域に関する学びのための機器備品整備		○年度自己評価	リストから選択してください。
開設又は定員増	令和10年度4月 (仮称)フード・マネジメント学部開設予定（入学定員120人、編入学定員10人、家政関係・農学関係・工学関係）			
フェーズ3	なし		○年度自己評価	リストから選択してください。
	3－① 令和10度5月～ 協議会と連携し、開設後の成果検証およびカリキュラムの点検評価のための協議 3－② 令和10年5月～ 専門部会として「点検評価部会」を並行して実施 3－③ 令和10年8月～ 探究ワークショップの開催 ※以下年度毎に実施 3－④ 令和10年8月～ 各種広告物等によるプロモーション活動 ※以下年度毎に実施 3－⑤ 令和10年2月～ 年度の成果・課題のまとめ ※以下年度毎に実施		○年度自己評価	リストから選択してください。
			○年度自己評価	リストから選択してください。
			○年度自己評価	リストから選択してください。
定員減又は学部等の廃止	令和7年度12月 短期大学部幼児保育学科40人減員に係る届出予定（入学定員150人、教育学・保育学関係） 令和8年度 短期大学部幼児保育学科40人減員予定（同上） 令和13年6月 栄養科学部フード・マネジメント学科廃止の届出予定			

フォローアップ対象年度	令和6年度	大学名	中村学園大学
-------------	-------	-----	--------

2.申請資格の確認

該当しない場合は、チェックしてください。

i) 学生募集停止中の大学

該当無し	☒ チェック
------	--

ii) 学校教育法第109条の規定に基づき文部科学大臣の認証を受けた者による直近の評価の結果、「不適合」の判定を受けている大学

該当無し	☒ チェック
------	--

iii) 「私立大学等経常費補助金」において、定員の充足状況に係る基準以外の事由により、前年度に不交付又は減額の措置を受けた大学

該当無し	☒ チェック
------	--

iv) 設置計画履行状況等調査において、「指摘事項（法令違反）」が付されている大学

該当無し	☒ チェック
------	--

v) 大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準（平成15年文部科学省告示第45号）第2条第1号又は第2号のいずれかに該当する者が設置する大学

該当無し	☒ チェック
------	--

3.申請要件の取組状況

令和6年度 の取組が当初の計画通りに進んでいる、又はチェック項目に該当する場合はチェックしてください。計画通りに進んでいない、又はチェック項目に該当しない場合は右欄に課題（理由）とその対応を記載してください。

①	高等教育の修学支援新制度において、大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第8号）に基づき、財務状況や収容定員充足率が適正であることを含めた要件を満たすことの確認を受けた大学であること。なお、新設予定の大学で、応募時点において、高等教育の修学支援新制度における要件確認の対象に該当しないものは、本要件は適用されない。					
	<table><tr><td>確認を受けている</td><td>☒ チェック</td></tr><tr><td>確認の対象に該当しない</td><td>☐ チェック</td></tr></table>	確認を受けている	☒ チェック	確認の対象に該当しない	☐ チェック	
確認を受けている	☒ チェック					
確認の対象に該当しない	☐ チェック					
②	十分な学生確保の見通しを備えた計画となっていること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
③	産業界を含む社会のニーズ等を踏まえ、学修目標の具体化、体系的な教育カリキュラムの編成及び大学での学修に必要な資質・能力等を評価する入学者選抜が適切に実施され、そのための体制を構築する計画となっていること。（その際、国際的な質保証の枠組みを活用するなど出口における質保証にも十分留意することが重要。）					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
④	特定成長分野の人材を育成するための戦略、適切な管理・教育体制や教育研究環境の整備を図る計画となっていること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑤	計画の対象となる学部等において、実務経験のある教員等による授業科目を配置する計画となっていること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑥	特定成長分野に係る学部の設置等（学部若しくは学科の設置又は収容定員の増加）による組織の変更を伴う学部再編等の計画であること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑦	社会において具体的な人材ニーズが現に存在する、又は、その十分な見通しのある分野に係る学部等の設置等に取り組む計画であること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑦	学部又は学科の設置を行う場合、地域における特定成長分野の人材を必要としている複数の企業等と設置構想に関する事前協議を行う計画であること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑧	入学定員が20名以上増加する計画であること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑨	事業計画の選定があった日から4年を経過する日を含む年度の末日までに、計画の対象となる学部等の設置等を行うことを目指す計画であること。（本事業の申請時に既に設置認可申請又は届出を行っている場合を除く。）					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる、又は設置等を行った</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる、又は設置等を行った	☒ チェック			
計画通りに進んでいる、又は設置等を行った	☒ チェック					
⑩	大学の総収容定員充足率（在籍学生数の収容定員に対する割合）について、計画の対象となる学部等の設置等に係る設置認可申請又は届出までに80%を満たす計画であること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑪	フェーズ3の助成期間終了時までに、大学全体の外部資金獲得額を申請時点の平均（過去5年間の中央値3年分の平均）に本事業による支援額の2.5%を上乗せした水準以上とする計画であること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑫	計画の対象となる学部又は学科において、自大学以外の機関との連携を通じた教育体制の整備と教育の実施及び多様な入学者の確保に向けた取組を行う計画であること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑬	選定された大学は、公募要領に定める申請要件を満たす質の高い教育等に向けた計画の具体化に努めるとともに、その進捗報告を行うこと。また、独立行政法人大学改革支援・学位授与機構法第十六条の三に規定する助成業務の実施に関する方針（令和5年4月13日文部科学大臣認可）六（2）②に基づき機構が実施する会議に参加すること。					
	<table><tr><td>計画の具体化に努め進捗報告を行い、会議に参加した</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画の具体化に努め進捗報告を行い、会議に参加した	☒ チェック			
計画の具体化に努め進捗報告を行い、会議に参加した	☒ チェック					
⑭	文部科学大臣から国際卓越研究大学として認定を受け、支援を受けている大学でないこと。					
	<table><tr><td>認定を受けておらず申請する意向もない</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	認定を受けておらず申請する意向もない	☒ チェック			
認定を受けておらず申請する意向もない	☒ チェック					

フォローアップ対象年度	令和6年度	大学名	中村学園大学
-------------	-------	-----	--------

4. 審査要項における確認項目の計画及び取組状況

令和6年度 の取組実績を記載し、申請時に選択した項目にチェックを入れた計画を記載してください。取組実績は会社名や大学名、定量的なデータ等を示し具体的に記載してください。検討中であっても状況を記載してください。
計画の進捗の遅れや実施困難な事項がある場合には、課題（理由）とその対応を記載してください。計画通りに実施できており、その他課題がない場合に限り記載は不要です。

【A：連携を通じた教育体制の整備と実施】（連携開設科目等に限らない）

- ☒ チェック
- a.企業や自治体と連携した科目（PBL等）の整備・実施
- ☐ チェック
- b.関連分野に強みを持つ地域の他大学と連携した科目の整備・実施
- ☒ チェック
- c.関連分野に強みを持つ海外大学との連携（連携した科目や交換留学プログラムの整備・実施等）

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
改組予定のフード・マネジメント学科では、現在も産学官連携により、実務家教員を招聘する他、60社を超えるインターンシップの受け入れ、フィールドワーク実施など企業や自治体との協力体制を築いており、同体制を引き継いでいく計画である。また、既にPBL型の授業や産学連携活動実績を多数有しており、企業や自治体等が抱える課題について、マーケティングやデータ分析を行い、グループワークやディスカッションを通して消費者視点のアイデアを企画提案している。その他、学園全体のSDGsに関する取組の一環として、企業や自治体と連携した地産地消への取組であるファーマーズマーケットの開催や、食堂から出た生ごみをたい肥に変えるコンポストによる食育フードサイクリング、未利用食品を用いたフードロス削減レシピの開発等にも取り組んでいる。 このようなノウハウを活かしながら、フェーズ1期間中に今後必要とされる人材像およびそのためのスキルについて議論し、企業や自治体と連携した科目やPBL型授業を整備する予定である。また、新学科に係る環境分析として、人材育成対象者である高校生の意向や、採用対象である企業等の意向調査を実施し、詳細な人材育成像を描きカリキュラムに落とし込む予定である。海外大学との連携としては、同フード・マネジメント学科にて整備しているハワイ大学カピオラニ・コミュニティ・カレッジとのダブルディグリープログラムを引き継ぐ。世界トップクラスの調理技術と生きた英語や食文化を学ぶことができる仕組みとなっており、新学部(仮)フード・マネジメント学部においても、本制度を活用し両大学の学位を修得できるよう整備する。	改組予定のフード・マネジメント学科では、産学官連携により実務家教員を招聘する他、60社を超えるインターンシップの受け入れ、フィールドワーク実施など企業や自治体との協力体制を継続して築いている。 また、令和6年度は、産学官で構成された福岡食育健康都市づくり地域協議会を基盤としながら37団体が構成される「食分野をけん引する高度専門人材育成事業委員会」にて、必要とされる人材像およびそのためのスキルについて議論した。今後は、人材像やスキルに照らした具体的なカリキュラムやPBL型授業の整備を進めていく。 また、新学科に係る環境分析として、人材育成対象者である高校生の意向や、採用対象である企業等の意向調査についても今後実施予定である。 さらに、海外大学との連携としては、計画通り、ハワイ大学カピオラニ・コミュニティ・カレッジとのダブルディグリープログラムを引き継ぐ予定で進めている。	

【B：多様な入学者の確保に向けた取組】

- ☒ チェック
- a.入学者選抜における科目の見直し
- ☐ チェック
- b.女子学生の確保（志願者数増）に向けた取組
- ☒ チェック
- c.地域の初等中等教育段階の学校との連携（出張授業の実施等）
- ☐ チェック
- d.社会人学生の受入れ強化に向けた取組（リカレント・リスキリングへの対応）
- ☐ チェック
- e.留学生の受入れ強化に向けた取組

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
入学者選抜の見直しとして、工業・商業・農業・生活・理数科といった高校への指定校推薦枠の拡大や、理系科目を履修した者を対象とした制度の新設を検討している。また、一般選抜では理系3科目型受験制度の新設を予定している。日本全体として、理系人材が少ないことから入学志願者確保の観点で、短期的な即効性は高いと言いつい難い面があるが、長期スパンでは理系人材を増やすために必要な制度と考えている。なお、文系の入学者については、学内に設置のラーニングサポートセンターを中心に個別指導等を実施しながら大学教育への円滑なシフトをサポートしていく。地域の初等中等教育段階の学校との連携については、併設高等学校をはじめ、食品・調理科を持つ高等学校等からの依頼に応じて、食をテーマにした高校の探究活動を実施する。具体的には、取り組みテーマの食の世界における位置づけやその意義について大学教員が考えを述べる。加えて、在学生や卒業生の活動についても言及することで、当該分野の理解促進および食産業が高校生にとっての将来の職業選択の1つとなるよう取り組んでいく。その他、安定的な入学者の確保として、併設高等学校との高大一貫教育を強みとした併設校推薦入試制度を活用する。高校在学時から大学の一部授業を学ぶことのできる制度である「併設校科目等履修生制度」を活用し、高大一貫教育体制を強化しながら学生を確保する。	令和6年度は、必要とされる人材像やスキルの洗い出しを行いながら、入学者選抜の見直しとして、工業・商業・農業・生活・理数科といった高校への指定校推薦枠を拡充した。また、理系科目を履修した者を対象とした制度として、一般選抜グローバル人材育成選抜を新設し、試験科目で数学を必須として、この選抜で入学し条件を満たした場合は、海外協定校への派遣留学の選考において優遇が受けられるとした。なお、文系の入学者については、引き続き、学内に設置のラーニングサポートセンターを中心に個別指導等を実施しながら大学教育への円滑なシフトをサポートしている状況である。 さらに、地域の初等中等教育段階の学校との連携については、併設高等学校をはじめ、食品・調理科を持つ高等学校等から依頼に応じて、大学教員による模擬授業や入試広報部職員による学科紹介を年間を通して行った。加えて、高校生の希望者を対象に、食をテーマにした探究ワークショップを開催し、食の重要性や魅力について大学教員が講義を行い、在学生がフォローしながらグループワークやプレゼンテーションを通して食分野に関する学びを深め課題を発見し、将来の目標をより明確にイメージすることができた機会とした。その他、安定的な入学者の確保として、併設高等学校との高大一貫教育を強みとした併設校推薦入試制度を活用して行く計画である。高校在学時から大学の一部授業を学ぶことのできる制度である「併設校科目等履修生制度」も引き続き実施しており、高大一貫教育体制を強化しながら学生確保を進めている。	一般選抜グローバル人材育成選抜については、2名の募集人員に対し、受験・合格は1名となったが入学には至らなかった。入試要項の公開から出願期間まで周知期間が短かったことも一要因であり、次年度はさらに認知度を上げていくよう、各種説明会や進学媒体等を活用しながら広報を強化していく。

フォローアップ対象年度	令和6年度	大学名	中村学園大学
-------------	-------	-----	--------

指摘事項等に対する対応状況を記載してください。

区分	指摘事項等	対応状況

大学名	中村学園大学
-----	--------

1.本事業対象となる学部等の状況

＜合計＞

[illegible]

大学名	中村学園大学
-----	--------

3.大学（学士課程）の状況

年度				R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度	R22年度	R23年度	R24年度
大区分	小区分	項目	単位																			
学生の入学・在籍状況	春季入学	入学定員	人	740	740																	
		入学者数	人	846	801																	
	その他の学期	入学定員	人	***	***																	
		入学者数	人	***	***																	
	入学者合計	入学定員(A)	人	740	740																	
		入学者数(B)	人	846	801																	
		入学定員充足率（B/A）	倍	1.14	1.08																	
	収容定員等	収容定員(C)	人	3080	3080																	
		編入学定員	人	60	60																	
		在籍者数(D)	人	3457	3434																	
		編入学者数	人	45	52																	
		収容定員充足率（D/C）	倍	1.12	1.11																	

4.外部資金の状況（全学）

年度			R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度
改組状況			選定－5年	選定－4年	選定－3年	選定－2年	選定－1年	選定													
項目	単位																				
外部資金獲得額	千円		56,241	50,292	61,223	72,693	48,885	68,276													

項目	単位	
申請時点の外部資金獲得額平均 （過去5年間における各年度の外部資金獲得額のうち最大額及び最小額を除いた残り3年分の平均）(E)	千円	70,162
本事業による助成金の額(F)	千円	52,647
フェーズ3の助成期間終了時までに達成する額 (E+F×2.5%)	千円	71,478

特記事項

4．外部資金の状況において、申請時点では外部資金獲得額を大学短大合算で算出していたが、今回は要領に沿い大学のみで算出しているため、申請時点との金額に乖離が生じている。過去の獲得額平均を55,919千円に、助成期間終了時までに達成する額を57,235千円に修正する。
--